



チャイルドライン ほっかいどう

こども専用電話 (無料)

0120-99-7777 毎日 午後4時～午後9時

4つの約束

秘密は守る。

どんなことでも一緒に考える。

名前は言わなくてもいい。

電話を切りたいときは切っていい。

チャイルドラインから見える子どもたちの今



『ツイッターでつぶやいちゃった』

クラスにむかつく子がいる。ツイッターでつぶやいた。少し不安な気持ちでいる。後悔はあるが... 合唱コンクールの練習中にトラブルになった。ストレスが溜まって。チャイルドラインに電話している。(高校生、女子)



『不登校になっている』

今年1月から不登校になっている。今、高校3年生、留年かも。大学に行きたい。でも学校へ行けないでいる。勉強に集中出来ない。冬休みの宿題を今やっている。友達もいないし... また電話します。(高校生、男子)

『外面磨きをしようかな』

『自分磨きをしたい』。今、内面を磨いているつもり。学年の中で女子に人気がある男子がいる。私を気に入ってくれているみたい。私もその子が好き。でも他の女子たちもその男子から気に入られたくてオシャレに気を使っている。私も外面磨きをしようかな。いろいろな話が出来てうれしかったです。(中学生、女子)

『母子家庭の子と言われて』

学校へ行きたくない。今日は行ってきたけど。『母子家庭』であることを言われて... 部活は楽しい。部活の間はイヤなことを言わない。部活仲間がいるから頑張れる自分がある。(中学生、女子)

『お母さんにご飯を作ってほしい』

お母さんがご飯をあまり作ってくれない。お母さんは仕事をしている。まだ小さい弟がいる。お母さんは家では夕飯をあまり食べない。弟がお腹を空かせて、かわいそうなので私が作っている。家の手伝いをするのはイヤではないが、お母さんにはご飯を作ってほしい。(小学生、女子)

『今日、学校をやめてきた』

今日、学校をやめてきた。夜中に仲間と遊び回り、学校へは枕を持って行っていた。家では寝られないので机に枕を置いて寝ている。両親は離婚した。祖父母に育ててもらっているが、出来のよい弟と差をつけられている。酒、タバコ、恐喝は日常～。そんな生活は体に悪いよと言ってくれたおばさんがいたなあと思い出してチャイルドラインのポスターを見て電話した。(高校生、男子)

■2017年度子ども専用電話の受信状況

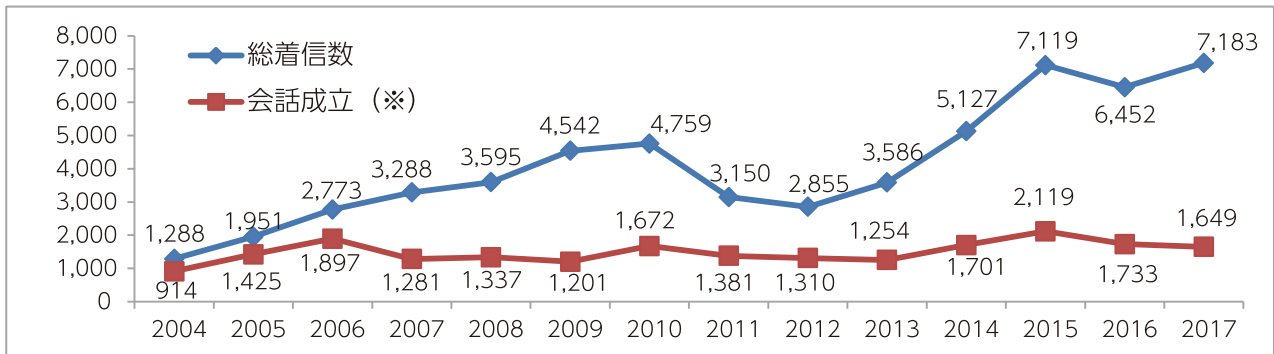
チャイルドラインほっかいどう
(2017年4月1日～2018年3月31日)

チャイルドラインは全国共通のフリーダイヤルで、毎週月曜から土曜日までの午後4時～9時まで開設しています。(今年4月からは「毎日の午後4時～9時」になりました)

「ほっかいどう」は、平日の月曜と水曜の週2回、原則2回線で子どもの声を受け止めています。2017年度の開設日数は延べ95日で、総着信数7,183件でした。このうち、「無言」「すぐに切れた」「一言・意味不明」などを除いた会話成立件数は1,649件です。

チャイルドラインほっかいどうが初めて開設した2004年以降の受信件数はグラフ1のとおりです。

【グラフ1 「総着信数・会話成立件数の年度別推移」】



注1…2004年度は7月～翌年3月まで。その他は4月～翌年3月までの件数です

注2…「会話成立件数」の算出方法は、2006年度までは「総着信数」から「無言」の件数を引き、2007年度以降は、「無言」のほか「お試し」「すぐ切れた」「一言・意味不明」「問い合わせ・お礼」の件数も引くこととしています。

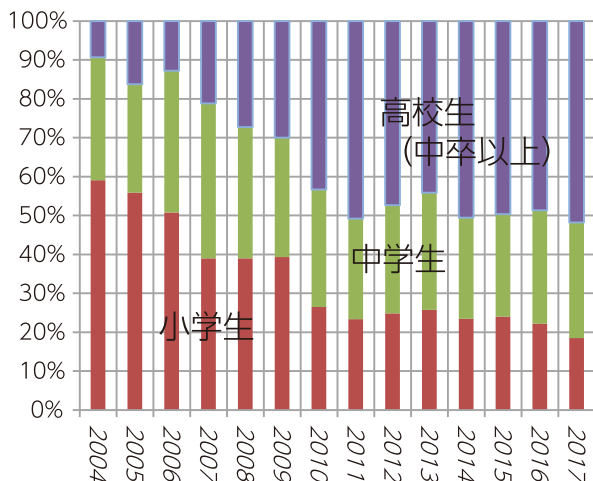
●「高校生 (中卒以上)」からの電話は50%

かかってきた年齢層は、2017年度で小学生が297件(18%)、中学生は467件(29%)、中卒以上の高校生が831件(50%)、その他不明は45件(3%)となっています。男女別で見ると、小学生と中学生は女子が、高校生は男子から多くかかってきました。

2004年度以降の年齢別件数の推移はグラフ2の通りで、開設当初はチャイルドラインの電話番号など記載したカードを配った小学生と中学生が多くを占めていましたが、2010年度あたりから高校生の割合が多くなっています。昨年は初めて高校生にカードを配布しました。

また、チャイルドラインを利用した際の電話機は、携帯電話が全体の72%で、固定電話・公衆電話は28%となっています。

【グラフ2 「年齢別件数の推移」】



●「話を聴いて欲しい」が70%超

話の対象となった人物等(関係性)では、「自分自身のこと」が645件(39%)で最も多く、次に多かった「友人・知人」483件(29%)と合わせると、全体の8割近くを占めています。

これを年齢別で見ると「自分自身のこと」は小学生26%、中学生40%、高校生42%と年齢が高くなるにつれて増えています。一方、「友人・知人」では小学生52%、中学生31%、高校生21%と低年齢ほど多くなっています。

受け手が感じた「電話をかけてきた動機」で最も多いのは「話を聴いて欲しい」が1,230件(75%)、次いで「答えが欲しい」が278件(17%)となっています。

耳を澄まして

受け手

電話の前に座ると、毎回ちょっとドキドキします。最初のうちは、してはいけないことを数え上げて、思ったことも言えずにいました。回を重ねるにつれ、会話の中に1つか2つは失敗したかなと思うこともありますが、たくさんお話してもらえて、嬉しいです。

無言電話やいたずら電話もたくさんありますが、一度の当番で、1つか2つ、じっくりお話する機会があれば幸運です。世の中には様々な困難があって、人はそれぞれ一生懸命生きていますね。もっと頑張れ、とは言いたくありません。すでに一生懸命であることに自分で気がつけると良いなあと思います。(O)

受け手

「親には分かってもらえないから・・・」「友達にも相談できないから・・・」という理由で掛けてくれると話せてよかったなと感じます。イタズラや性的な言葉を言いたいために掛けてこられると悲しくなってしまいます。

最初は不安で小さく沈んだ声が、最後には明るく弾むような声になってもらえると(今日も電話に出られてよかったなあ)と単純に感じてしまいます。

掛けるあなたも受ける私も、お互いに「チャイルドラインがあってよかった」と思えるような電話にしていきたいです。(M)

支え手

電話のむこうから聞こえてくる声。声からは言葉だけでなく、気配や気持ちも伝わってきます。うれしいのかな? 悲しいのかな? 困っているのかな? それを感じとろうと緊張して耳を澄まします。

きっと電話のむこうでも「どんな人がでるだろう?」と、ちょっぴり緊張し期待しながら耳を澄ましていることでしょう。

電話だけですごく役にたつのは難しいこと。でも「ちゃんと話せた!」「真剣に聞いてくれた!」と心が少し暖かくなるといいな。

そんなことを願いながら今日も電話の声に耳を澄ましています。(H)

支え手

支え手を担当して、15年近くになりますが、未だに受け手を十分に支援できたとはいえないのが現状です。長年担当していると、大人の電話やいたずら電話など不快な電話も多いのですが、その見極めもむずかしく、電話対応に苦慮している受手の皆さんに的確な助言もできず、内心忸怩たる思いになることも多いのです。

受け手を信じて、よけいなことを言わないで我慢できるかが、そばにいただけでも受け手の心の支えになれるかが自分の課題でもあります。(T)

チャイルドラインのオンラインチャットについて

チャイルドライン支援センターでは、2014年度に策定された中期目標の「ツールの模索」の中で、オンラインでの子どもへの寄り添う方法を検討してきました。2016年3月から、「文字情報での子どもへ寄り添う方法」としてチャットによるトライアルを開始しました。

今までに10回のキャンペーンと昨年9月から定期的なトライアルを重ね、今年度総会で2019年度以降事業として正式に取り組むことが決まりました。

2016年3月から2018年3月までの報告は、以下の通りです。

チャット利用者数	対応件数 (会話成立)	対応率	対応時間	平均時間
7,542人 (1日82人)	1,714件 (1日19件)	22.7%	68,207分 (1日741分)	40分

チャット専用ページの訪問者数は18,422人／92日間

2018年度からは、東京だけではなく希望地域団体も参加し、2018年7月時点では、全国10団体（複数団体で参加実施の場所もあり）ほどとなっています。

オンラインの受け手は、実施団体で2年100時間以上の電話担当経験者が、事前養成研修として、2日間10時間の所定の研修を受けて担当しています。

オンライン支え手は、実施団体で支え手担当している経験者で2時間以上の研修を受けた方です。（受け手養成研修も受講が必要）

研修内容は、オンラインチャットの仕組みを学ぶと共にチャイルドラインの目的である「寄り添い」「共感」「傾聴」の仕方を、音声ではなく文字で行うための研修です。また、キャンペーン終了後には、事後研修として事例検討など丁寧な振り返り研修参加も求められます。

実施報告書にもありますが、主訴等は電話とさほど変わりはありませんが、時間が長くなる点や雑談が少ないなど多少の差はありますが、極端な変化は見られません。

近年、子どもたちの文字によるコミュニケーションは活発となっており、使いやすく身近なツールとなることがチャイルドラインには求められています。



チャイルドライン 15 年の活動を振り返って

代表理事 今川 民雄

私がチャイルドラインの活動への参加を誘われたのは、2003年のことでした。その年の5月のゴールデンウィークに、チャイルドライン支援センターが提起したキャンペーンに呼応して、札幌でも子どもたちからの電話を受けようと計画した人々に、電話を受けるロール・プレイの研修を実施してほしいと依頼されたのが最初でした。

このキャンペーンの時に多くの北海道の子どもから電話があったことから「チャイルドラインさっぽろ」が立ち上がりました。翌年の開局を目指して、40名の受け手応募者に対しての研修が始まりました。受け手の第1期生は、当初40名いました。私はロール・プレイを担当したのですが、毎週2回、二つのグループに分けて実施しました。雪の中を通った記憶があります。それでも受け手を目指す皆さんと同様に、私も「燃えて」いたように思います。そして、翌年の7月に「チャイルドラインさっぽろ」の開局にこぎつけました。

2018年7月で、開局から14年が過ぎ15年目に入りました。この間の「チャイルドラインさっぽろ(昨年5月から「チャイルドラインほっかいどう」)の活動が、順風満帆に経過したとは思っていません。ボランティアである受け手の皆さんは、それぞれに様々な事情があり、途中で「受け手」を辞退される方が、それこそ着実におられます。そして「受け手」の人数は、毎年増えて減るを繰り返しています。それでも15年続いてきました。「受け手」の皆さんは、着実に子どもたちからの声を受けとめています。子どもたちの心の叫びに、真剣に耳を傾けようとする大人たちがいる限り、チャイルドラインは続いていくと思っています。子どもたちのためにも、そして子どもたちの声を受けとめることで成長をしていく私たちのためにも。



ボランティア活動の意義

常務理事 田辺 毅彦

私がチャイルドラインに関わるようになったのは2005年、チャイルドラインほっかいどうが立ち上がって3年目のことでした。私が参加した当時、チャイルドラインのシステムは既にできあがっていて、私は支え手として決められた受け手へのサポートを淡々とこなすだけでした。本当はこのような活動は、行政などを中心とした子どもの支援活動として必要欠くべからざる活動であると思いますが、チャイルドラインは、他の子どもの電話相談とは大きく異なる点があります。それは、他の電話相談は、問題を抱えた子どもたちが、その問題について直接問いかけるものですが、チャイルドラインはご存知の方も多いと思いますが、名乗らなくてもよい、何を話しても良い、途中でやめてもよい、という非常に自由な枠組みの相談システムなのです。おしゃべりの延長線上で自由に話ができるのです。

このような形式で行われる相談システムこそ、ボランティア活動で行う意義のあるものです。電話を話す側も自由ならば、電話を聞く側の我々も、子どもたちにお説教をしたりアドバイスをしすぎたりしないで、ひたすらかれらの話を聞くことに徹することを目的にしています。それでも、ボランティアとはいえ、電話相談は、受け手をはじめチャイルドライン活動に関わっている者同士の信頼関係を基礎にして、子どもの話を聴く作業です。子どもたちの気持ちをいかに聴くことができるのかは、単に話を聞く技術を高めるだけではなく、この協力関係が鍵になります。そういう意味では、まさに、「一期一会」の関係なのです。「一期一会」は、「茶会に臨む際には、その機会を一生に一度のものとして心得て、主客共に、互いに誠意を尽くしなさい」、という千利休が茶会の心得として述べた有名な言葉です。

これからも、子どもたちの気持ちを聴くために、責任と義務を重んじたボランティア活動をめざしていきたいと思っています。ただ、最近、チャイルドラインの活動には定年退職した方や子育てを終えた比較的、高齢な方も参加してくれています。その一方で、子どもの相談は、SNSを中心としたラインなどの文面を基本としたチャットに移行しつつあり、スタッフのメンバーがこのようなコミュニケーションの変化に対応していけるのか少々不安もあり、今後の課題の一つです。

子どもたちの今、公開講座

チャイルドラインほっかいどうは公開講座【子どもたちの今、貧困・思春期・LGBT】を3月18日、道新DO-BOXで開きました。

お招きしたチャイルドライン支援センター金子由美子理事は講演の中で「子どもたちは、本当に変わってきている。大人はその変化を知らなければいけない」「行政のセーフティネットからこぼれ落ちる子どもたちを社会全体で受け止める網を編む必要がある」などと具体的な例を挙げて話しました。会場には70人以上の市民や会員が集まりました。

たくさんの気づきがあった会でした。講演のあと意見交換会も開かれました。



14人に認定状

【第14期受け手認定式】

チャイルドラインほっかいどうの電話受け手認定式が7月13日午後、札幌市わくわくホリデーホールで行われ、養成講座、インターン研修などを終えた14人が出席、児玉芳明代表理事から認定状を受け取りました。

そのあと現役の受け手や運営に関わっている会員らと共に交流会を行い、受け手を目指した気持ちなどを話し合いました。



第15期受け手養成・インターン研修

チャイルドラインでは、「受け手」というボランティアが子どもからの電話を受けています。受け手になるには、養成研修とインターン研修を受けなければなりません。2017年度に開催した「第14期受け手養成研修」は、受講生21人が7月から12月の間、12回（講義等4回、ロールプレイ6回、グループワーク2回）、その後の「インターン研修」も受講生14人が1月から6月まで、ロールプレイを中心に12回実施し、受け手として認定されました。

また、受け手になったあとも、その資質を向上させるため月1回「受け手継続研修」を実施しています。

私たちは「チャイルドラインほっかいどう」を応援しています

菊地労務行政事務所

特定社会保険労務士 行政書士 菊地利夫
札幌市東区北24条東8丁目3-25 メゾンエクセル202号

全身の健康を考えたオーダーメイドの歯科治療

高輪クリニック 匠

院長 石澤 匠 TEL:011-242-8888

司法書士法人 第一事務所

司法書士 田澤 泰明
札幌市中央区大通西4丁目1番地道銀ビル7階

はなまるメッセージ

広告制作ディレクター・フォトライター 花岡 俊吾
江別市萌えぎ野西25-1

(株)ピーオーピーオリジン

沼澤 拓也
札幌市中央区円山西町7丁目1-8

佐藤 等 公認会計士事務所

札幌市中央区大通西4丁目1番地 道銀ビル 7階

雇用保険・社会保険業務代行、人事・労務顧問
フレンドリーで的確なサービスを目指します

片山社会保険労務士事務所

社会保険労務士 片山 展成
<http://www.office-katayama.biz/>

札幌の幼稚園児 約 25,000 名に
ペーパークラフトやぬりえを配布しております

幡本印刷株式会社

代表取締役社長 加藤 景
札幌市西区発寒 10 条 14 丁目 1067-3

子どもたちの未来のために

チャイルドマインディング合同会社 齋藤 厚・美和子

<http://pukapuka-kids.com/>

児童発達支援・放課後等デイサービス
[あそんでいたらできることがふえたね]

ゆーあつぷ 元町

D&I マネジメント (株) 代表 棟方 俊輔
連絡先 011-768-8800

一緒にたすけあいしませんか？

びすけっと

NPO 法人 札幌微助人倶楽部

会長 児玉 芳明
札幌市中央区北5西6 道通ビル 8階
Tel/Fax 011-241-9228
<http://sapporobiscuit.web.fc2.com/>

“豊かな暮らしのお手伝い” 住まいのリフォーム専門に38年



▼ 様々なお住まいのお悩みを解決いたします ▼



お見積り・お問い合わせは下記まで

受付時間 / 9:00 ~ 18:00 (定休日: 火・水)

☎ 0120-093-033

【本店】札幌市厚別区厚別南1丁目18-1
TEL.011-896-3306

ホームページもぜひご覧ください
お客様の声・リフォーム事例を多数ご紹介！

土屋ホームトピア | 検索
<https://www.hometopia.jp/>

一緒に一所懸命

生活介護事業所 アバンギャルド

札幌市北区北 35 条西 3 丁目 2-22
Tel:011-769-9709 Fax:011-769-9710
E-mail avantgarde@ecnt.net

私たちは建築を通じ、お客様の夢を形にし、
満足していただくことに全力を尽くします

株式会社 愛夢

代表取締役 佐藤 仁彦
<http://aimu89.com/>

照明設計・電気工事 メンテナンスまで
電気のことなら「はなもり」へ

株式会社 花森

札幌市東区北 47 条東 16 丁目 1-35
Tel. 011-789-8007

児童発達支援・放課後等デイサービス

ぷかぷか

執行役員 齋藤 厚
旭川市住吉6条1丁目11-15 Tel. 0166-76-4231

私たちは「チャイルドラインほっかいどう」を応援しています

スープカリー

奥芝商店

料理長 小原 航
札幌市白石区菊水元町 9 条 2 丁目 2-29
TEL:011-839-0061

株式会社 ふじ研究所

代表取締役 佐橋 光好
札幌市東区北 28 条東 6 丁目 1-1
TEL:011-742-5828

未来通商株式会社

代表取締役社長 茂呂 剛伸
札幌市中央区南 4 条西 1 丁目 15-2 栗林ビル 7 階
TEL:011-200-2112

質の高い法務サービスを提供し
真の問題解決をめざします

弁護士法人 太田・小幡綜合法律事務所

代表弁護士 太田 勝久
<http://www.oota-law.com/>
札幌事務所: TEL:011-222-3251 東京事務所: TEL:03-6869-0028

日本舞踊家 藤間流師範の藤間蘭翔を
応援しています

藤間蘭翔 北海道後援会

事務局長 太田 陽子
<http://www.ranshou.jp/>

株式会社リラモーヴ イースターリィ

代表取締役 青野 真澄
札幌市西区山の手 1 条 1 丁目 3-1
電話:011-688-8787

一般社団法人

北海道子どもホスピスプロジェクト

代表理事 佐藤 貴虎
札幌市中央区南 20 条西 5 丁目 1-13
<https://www.h-chp.org/>

大切なお客様のおもてなしに

きょうど料理亭 杉ノ目

代表取締役 杉目念史雄
札幌市中央区南 5 条西 5 丁目
電話:011-521-0888

花育教室、キッズ花フェスタの開催
命の大事さ・優しさ・想像力等情操面を育みます

NPO 法人

ほっかいどう花育ネットワーク

代表理事 櫻井 清隆
札幌市中央区北 7 条西 21 丁目 1-23

旅の価値は目的地を目指すことにあるのではなく
大切なのは視野を広げることにある

太陽旅行株式会社

代表取締役 高橋 博音
<http://www.taiyosun.com/>

不動産開発・建築設計コンサルタント
一級建築士事務所

株式会社 アイプランニング

代表取締役 滝口 清晴
TEL:011-890-6050 FAX:011-890-6051

商業施設・まちづくりの計画全般 テナント仲介
絆づくりが私たちの使命です

株式会社 エム・アールコーポレーション

代表取締役 光永 彰
<https://www.facebook.com/mrc2007/>

**氷雪の門
さっぽろっ
かど屋**

室内装花・緑化造園・植樹・ガーデニング
緑を中心とした住空間全般の設計施工

エディア株式会社

代表取締役 高橋 正樹・櫻井 清隆
<http://www.eda-g.com/>

日章冷熱株式会社

代表取締役 脇 章朗
札幌市東区北 19 条東 2 丁目 1-21
<http://www.nis-syo.co.jp>

有限会社 シグナル

代表取締役社長 月居 吉彦
札幌市東区北 15 条東 18 丁目 1-26
<http://www.signal-net.co.jp>

協和サッシ工業株式会社

代表取締役 平井 隆満
札幌市東区北 36 条東 24 丁目 5-24
TEL:011-781-2622

スープカリー

奥芝商店

店長 桑原 昇熙
札幌市中央区北 4 条西 1 丁目ホクレンビル B1
TEL:011-207-0266

スープカリー

奥芝商店

女将 藤田 世里奈
札幌市北区北 6 条西 2 丁目 パセオウエスト 1 階
TEL:011-213-5660

質の高い法務サービスを提供し
真の問題解決をめざします

弁護士法人 太田・小幡綜合法律事務所

東京事務所所長 小幡 朋弘
<http://www.oota-law.com/>
札幌事務所: TEL:011-222-3251 東京事務所: TEL:03-6869-0028

■助成・寄付をしていただいた団体・企業

【助成金】

- ・赤い羽根共同募金助成金（カード等全道配布事業）・（株）北海道新聞社（カード等全道配布事業）
- ・公益財団法人 太陽財団（設立15周年記念事業）

【寄付金】

- ・公益財団 社会貢献支援財団・札幌ライオンズクラブ・（株）北洋銀行
- ・日本キリスト教会札幌北一条教会日曜学校・（株）ブロックコーポレーション
- ・（株）SDL・HD・弁護士法人 太田・小幡綜合法律事務所・（株）札幌ドーム
- ・キャリアバンク（株）・（株）花森・NPO法人ほっかいどう花育ネットワーク
- ・太陽旅行（株）・（株）愛夢・（株）アイプランニング・（株）エム・アールコーポレーション
- ・（有）みつる・エディア（株）・高輪クリニック匠・北海道連合札幌地区連合
- ・北海道電力総連石狩地域連絡会・札幌市役所職員組合

広がる支援の輪

札幌INNERホイールクラブから 10 万円寄付

札幌東ロータリークラブ会員の夫人を中心に組織している札幌INNERホイールクラブから支援金 10 万円を戴きました。

5 月 13 日、札幌第一ホテルで行われた同クラブ例会の席上、菊地美矢子同クラブ会長から児玉芳明代表理事に寄付金が手渡され、水口良子事務局長が会員の皆さんへチャイルドラインの活動を紹介しました。



イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン (イオン札幌苗穂店)

大手スーパーイオンは社会貢献活動のひとつとしてお客様から応援する各団体の BOX に黄色のレシートを投函して頂き、年間合計の 1% がイオンカードにて寄付してくれるキャンペーンを行っています。チャイルドラインほっかいどうは昨年度 55400 円分のカードを頂き事務用品やお茶などを購入に充てました。毎月 11 日がキャンペーンの日です。企画渉外部の部員を中心に年に数回参加し、直接お客様に投函をお願いしています。

レシートを沢山集めることが目的ですが、お客さまと触れ合ってチャイルドラインの広報活動にもなっています。子どもたちには「チャイルドラインを知っている？」などと話しかけ反応を楽しんでいます。会員の皆さんも是非一緒に参加してみませんか？

北海道日本ハムファイターズ募金

チャイルドラインほっかいどう企画渉外部は北海道日本ハムファイターズ基金の募金活動を年間数回、札幌ドームで試合のある日に行っています。日ハム提供の選手のブロマイドなどを差し上げ基金への寄付を頂きます。

集まったお金は道内の社会活動奉仕団体への支援に使われます。チャイルドラインは小中学生へ配るカード 43 万 4000 枚をこの基金で作成してもらっています。今年も 7 月 28, 29 日に募金を呼びかけました。



北海道日本ハムファイターズからカード贈呈

チャイルドラインへの電話番号を記載したカード 430,000 枚を今年も北海道日本ハムファイターズさんからチャイルドラインほっかいどうに頂きました。

全道の小中学生全員に学校を通じて手渡します。

ファイターズさんの社会貢献活動の一つで、2014 年から毎年頂戴しています。8 月 26 日午後、マスコットのフレップ、杉谷拳士選手も同席して札幌ドームで贈呈式が行われ、カードを大きくしたパネルを児玉代表理事と早崎悦子理事がお受けしました。



高校生カード作成に北海道新聞社が助成

高校生向けカード 14 万枚作成にあたり、今年度も北海道新聞社が作成費と送料を助成してくれることになりました。昨年度に引き続いての助成で道内高校 280 校の高校生全員へ順次配ります。

カードの前面にはチャットのアカウント QR コードを入れました。

18 歳までのあなたの声に、耳をすます電話

チャイルドライン

☎ 0120-99-7777

毎日 午後 4 時～午後 9 時
電話代無料 / 携帯・スマホ OK

主催：特定非営利活動法人チャイルドラインほっかいどう（国営 NPO）
協賛：北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会

チャット相談リンク

悩みは、言葉にした瞬間、小さくなる。

チャイルドラインは、どんな悩みも受け止める。18 歳までの子どもがかかる無料の電話。

チャイルドラインの約束

- 秘密は守る。
- どんなことでも、一緒に考える。
- 名前は言わなくてもいい。
- 電話を切りたいときは切っていい。

中高生 まなび

(株)北海道新聞社助成事業

社会貢献支援財団からの表彰

2004 年「チャイルドラインさっぽろ」から始まった活動が、社会貢献支援財団に認められ表彰を受けました。2017 年 11 月 27 日に東京の帝国ホテルで表彰式が開催され、会長の安倍昭恵氏から坂本裕子共同代表が表彰状を受け取り、参加した 6 名と共に喜びを分かち合いました。

また副賞として 50 万円をいただき今後の活動に有効に使わせていただく予定です。

2018 年度通常総会開催

特定非営利活動法人チャイルドラインほっかいどうの2018年度（第17回）通常総会は5月25日、札幌市・道銀ビルで行われました。2017年度事業報告、決算報告、2018年度事業計画、活動予算案などが満場一致で承認されました。役員選出では坂本裕子代表理事ら4人の理事が退任、児玉芳明、今川民雄両理事を代表理事に再任しました。

事業計画の審議では会員間のコミュニケーションの活発化、15周年記念事業の進め方などで議論が交わされました。退任した坂本裕子代表理事には今川代表から花束が贈られました。



チャイルドラインを応援してください

「チャイルドラインほっかいどう」を資金面で応援する会員を募集しています。

年会費はつぎの通りです。

- 一般会員（個人）1口5,000円、（団体）1口10,000円
- サポート会員 1口1,000円

【郵便振替】（口座番号）02750-1-74500

（加入者名）チャイルドラインほっかいどう

ホームページアドレス変更のお知らせ

2018年4月よりHPアドレスが変更しております。ご登録をお願いいたします。

旧：<http://www8.plala.or.jp/cl-sapporo/>



新：<https://cl-hokkaido.or.jp>

チャイルドラインほっかいどうは寄付金の税額控除が受けられる 「認定NPO法人」です

当会への寄付金は税の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。寄付金のほか正会員以外の会費も税控除が適用されます。優遇措置を受けるためには、当会の領収書が必要です。寄付を郵便振替でした場合は、指定の用紙（払込取扱票）に「お名前」「ご住所」「ご連絡先」をご記入ください。入金を確認した上で領収書を郵送します。

認定NPO法人 チャイルドラインほっかいどう

〒060-8691 札幌中央郵便局私書箱13号

TEL&FAX：011-272-3755（電話での連絡は平日の月曜と水曜の正午から午後4時までをお願いします）

e-mail chairud@gray.plala.or.jp <https://cl-hokkaido.or.jp>